向陽新聞
高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　加賀野井秀一
発行人　井上晶博
印刷　高知印刷

写真
TEL ②6758
大丸東入口前
高橋

新校舎いぜん足踏状態

いつ聞ける建設の槌音（つちおと）

今年度中に発表の可能性も

去る一月三十日新聞部では、新校舎建設という問題を生徒がどのように感じているかを調べるために、それに関するアンケートをとってみた。これによると〝校舎建設に関心はあるか〟との問に対し〝有る〟が七一・〇％〝ない〟が二三・四％（白紙五・六％）〝建設を急いで欲しいか〟との問に対し〝急いで欲しい〟が六五・七％〝欲しくない〟が二七・七％（白紙一・六％〝建設内容を発表して欲しいか〟との問に対しては〝欲しい〟が八二・六％〝欲しくない〟が一〇・六％（白紙六・八％であった。）

この結果から、生徒の大部分の者が新校舎建設に関心を示し、その内容を知りたがっていることがうかがえる。そこで新聞部では、今度これがどこまで進行しているか調べてみた。

〝新校舎を建てろ〟こんな声が聞かれ始めたのは最近のことではない。もうだいぶ前からのことである。このような声は現校舎の老朽化、そして設備面での不足が目立ってきたここ二〜三年に急に高まって来たものである。

校長がこの問題を本格的に考え始め、理事会その他関係者に新校舎建設ということを提案したのは、三年ほど前の事であるという。その後、何度か理事会を開き、後援会などにも図ってきたが、なかなか決定を見なかった。一昨年ごろから校長は毎年のように「今年中には新校舎建設の内容（たとえば場所の決定とか、青写真等）を発表する。」との意向を示してきたが、いまだに発表をしていない。これに対し校長はこう答えている「新しい校舎を建てるという事は、たとえれば、学生から社会人になるように、一つの大きな転換であり、衣変えをする時であると同時にそれによって大きく前進をしなければならない。こういう大事な事を一朝一夕に決めるわけにはゆかない。場所一つにしても大変だ。現在の所にするか、他の所に移すかによっても建てる方は違ってくる。もしここに建てるとしても、プール・体育館を残すか新しくするかによっても違ってくる。ここに建てる場合には玄関を今の裏門の方にするという案もある。しかし今の所まだ何も決まっていない。生徒の中には郡部に建てると決めている者もあるようだが、そんな事はまだ決っていない。」そして最後にこう結んだ「今年度中に、できるだけ早く理事会を開き、来年度には生徒諸君にも建設内容を発表したい。」これがこれまでのように口だけでなく、本当になればいいんだが……。

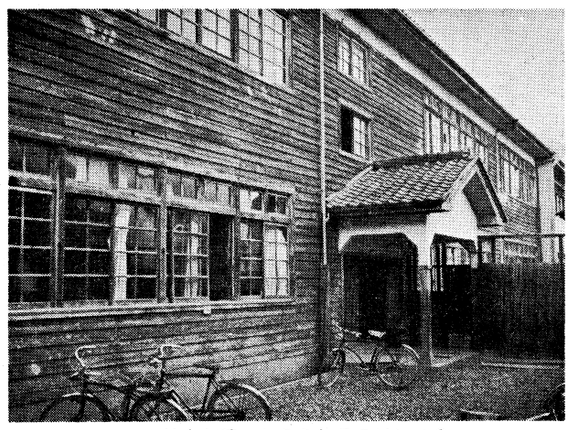
ところでアンケートの結果をみてみると〝新校舎建設を急いで欲しいか〟との問に対して〝欲しくない〟と答えた者が三〇％近くいるということに注目してもらいたい。他の問に対しての〝no〟が二〇〜一〇％であるのにどうしてだろう。理由はさまざまであったが、とくに〝自分達が入れないから〟と〝現在の校舎の設備不足をさし置いて新校舎もあったものではない〟という二つが多かった。前者は生徒の利己心、自分本位の考え方の表われではなかろうか。もう少し真剣に土佐校の将来を考えなくてはならないのではないか。後者は色々な問題を含んでいると思われる。たとえば〝どのような物が不足か〟という問に対し、一番多くあったのが蛍光灯の不足であった。これは直接生徒に関係してくる。少なくとも三〇〇ルクス以上なくてはならない明りが五〇ルクス以下の所がだいぶあることがみられた。（二月二日木曜日放課後測定・天気晴れ）

最後に一生徒の意見を聞いてみよう「何事をするにしても少しの弊害は伴うものである。しかしその害が今度のように、新校舎建設に金がいるから、現校舎の不備なだからである。そうして交付された数が整理部の予想よりはるかに多かった。そのため減るはずだった数が減らず、かえってふえたので規制の目的は、まったく達成されなかった。

その規制についても、「規制範囲内から乗って来ている人もいる。」という声があったため、新聞部が調査すると、中学、高校合わせて、規制範囲内から許可を受けて乗って来ている人は二十五人（三K）、秋田（三H）の二選手。

二人とも、「僕達が個人で表彰されたことより、団体として表彰されたことがとてもうれしい。これからも、後輩に土佐の名に恥じないようなりっぱな野球部をつくってもらいたい。」とうれしそうな表情で話していた。

又十二月二十五日には、同じく本校の野球部が県体育協会に、優秀団体として表彰されている。


この校舎が建てかえられるのはいつ？

氾濫する自転車

対策の効果上がらず

現在、本校の屋根のある自転車置場の収容台数は五百台しかない。しかし、登録されている自転車通学者は、九百名である。今年度は屋根のある自転車置場を高学年に優遇してあるので当然、低学年の自転車の中に収容できないものがでてくる。

なぜ、本校の登録台数が九百台もあるのか。

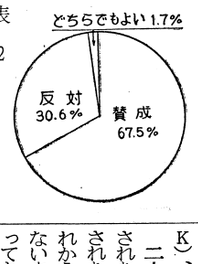
それは、自転車規制を一・二Kmで実施した時規制区域外の生徒のうち、それまで自転車に乗ってきていなかった生徒も、遅刻しそうな時、ストの時などに乗ってくるなどという名目で許可証を申し込んだからである。

本格的な自転車規制をやっているのは本校だけであるのに、他校と較べると自転車台数は表1のように、本校が圧倒的に多いのである。

表1　他校との比較　（順不同）

	自転車台数	規制範囲	許可証	対車の比率 自転車屋根場に対する
土佐	900台	1.2Km	あり	55.6%
高知	400台	3Km	あり	—
土佐女子	93台	なし	あり	100%
学芸	650台	なし	なし	66%
清和	20台	なし	なし	100%
追手前	620台	1Km	なし	75%

表2　自転車置場に屋根をつけるとすれば……



主張

「開放主義をめざして」

九月初頭、夏休み気分がぬけきらないまま二学期をむかえた生徒達に一喝を入れる為、学校側が教育方針をそれまでの「開放主義」より「校則強化主義」に転換した。学校側がこの決定の目的とするところは「弛緩した学校生活をひきしめる。」「生徒の自主性を喚起する。」の二点だった。が、今までをふり返ってみて、はたしてこの二大目的を達成する為に、現在、我々はしかるべき方向に進んでいると言えるだろうか。

「校則強化主義」によって、校則違反はめっきり減少した。しかし、それと共に、これを手ばなしでは喜べない幾つかの事実が顕著に現われてきている。

〝減少した校則違反が、学校側から指摘され検査をうける部分にのみとどまっていること〟〝それらの検査をごまかす為の特殊技能が、次々と工夫されていること〟これらは一体何を意味するのだろうか。つまりは「弛緩した学校生活のひきしめ」という目的が、正しく達せられていないのではないか。あるいは生徒の行動をますます陰険なものとしてしまっているのではないか。最近また、遅刻者が増加傾向にあることを考えあわせても、この目的は達せられていないと言いきることができよう。

次に「生徒の自主性の喚起」だが、これについても同様に、目的は達成されていないということが言える。例えば、高校執行部の役員選挙の際、立候補者がわずか六名だったこと。H・R委員会、美化委員会の不活発なことがあげられるが、そのすべてに生徒の自主性の無さが現われているようだ。こうなった原因はどこにあるのだろう。

一つは今の学校方針に有ると考えられる。「校則強化主義」の実践の為に〝罰則〟という方法をとったこと。それによって自分達の自主性は発揮しにくくなったという意識が、多かれ少なかれ生徒の間に生まれているのではないだろうか。また、学校側は否定しているが、学校方針が変わったのは例の盛岡での事件でうけた学校側の動揺が表面化したためで、生徒のことを充分に考えた結果の処置ではないと見るむきもある。しかし、何といっても原因はその施行方法にあると考えられる。というのは、服装など検査までして校則を徹底させているものがある反面、自習時間や掃除、H・Rについては実にルーズな扱いをしているといった片手落ちの面が多く有るからである。それらの点から、この施行法は口先だけの、どく粗雑なものだと見られるむきが強い。

しかし、原因はやはり生徒側の心構えにもあると言えよう。年来の土佐の校風であった「開放主義」が、生徒の間にまだ根づよく残っている。現在、まだ完全にかたまりきらない新方針には種々の問題点があるところから、ともすれば慣れている以前の「開放主義」を求める傾向があるのではないか。我々は過去の「開放主義」をあまりに美化し過ぎて考えているのではないだろうか。一部の生徒には、彼ら自身が規則を守るのをおろそかにしているところを正当づける為に新方針の施行に反抗している点がありはしないか。

学校側、あるいは生徒側が理想とする教育方針は何か？共に「開放主義」である。現在の処置をとった学校側も、生徒側でその処置に賛成の立場をとっている者も、今の処置はやむなくとったもので、その理想としては「開放主義」をあげている。しかし、あくまでもそれは**生徒の自主性の上にたったもの**でなければならない。以前の「開放主義」が崩壊したのは、生徒の自主性がうすれ、規則の徹底がルーズになり、「開放」が悪い意味での「放任」になったことによるものだから。

現在の体制から過去のそれより一歩進んだ「開放主義」を求める為には、どうしても我々生徒の自主性を高めることが大切だ。要は今、生徒の一人一人がこの自主制の大切さを自覚することである。

学校側が、現在の方針の施行法を再検討することと、我々生徒が自主性を持つということとが、今いちばん大切なことではないだろうか。

本年度進学志望校決定

高知、早稲田減少

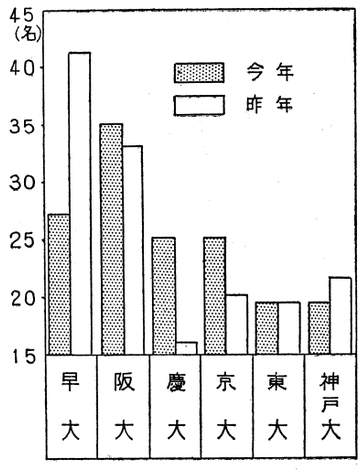
史上最高の「狭き門」と予想されている大学入試も目の前となったが、このほど四十一年度の本校の進学志望大学の状況が指導部でまとめられた。

進学希望者は三百五十二名中三百五十名。そのうち国立大学への志願者は、二百九名、公立大学が三十二名、私立大学へは九十七名、未定五名、準大学二名となっている昨年度に比べ、国立が三十三名減少、公立が十三名増加している。

主要大学についてうちわけをみると、昨年は早大が四十三名でトップだったのに対し、今年は阪大の三十五名がトップ。次いで早大の二十七名、京大と慶大が共に二十六名、東大十九名、神戸大も同じく十九名となっている。（表参照）

昨年度と比較してみると、早大が十六名減少しているのに対し、慶大が十名増加、又阪大が三名、京大が五名増加し、神戸大学が四名減少している。東大は昨年と同人数の志願者である。なお地元高知大へは、昨年の二十七名に対し九名と大幅に減少している。

系統別にみると、文科系は百四十三名、理工系は百四十名となっている。学部別にはトップは医学部の五十七名、次いで工学部五十一名、文学部四十八名、法学部四十三名、経済学部三十三名、理学部二十一名、薬学部八名などとなっている。



防大合格者六十二名

今年も各大学のトップをきって防衛大学の第一次合格者が発表された。それによると七十四名の受験者のうち第一次合格者が六十二名となっており、昨年と同じく八十五パーセントの割で合格している。なお今年は一番で浜口君がパスしている。

入試のトップを切って

野村君慶大へ

慶大学で昨年から推薦入学制が実施され、本校は昨年にひきつづき今年もその指定校となった。昨年は該当者がいなかったため見送りとなったが、今年はSホームの野村隆司君が推薦され、早々に大学合格確定のトップを切った。

慶応のこの制度は他校のものとは違って、慶大が指定してきた高校のみに推薦入学が許されるものである。今年指定校となった高校は、全国三千余校のうち百三十校ほどで、いずれも慶大入試に実績のある高校ばかりであり、これらの高校が各々一名推薦入学者をだすことになっている。

なお、野村君は工学部へ進学することになった。

土佐校七不思議 (1)

毎日みなさんが利用している、レストラン・トサコーでのお話。ここで使う七味トーガラシの量はなんと年間一〇キロ。「ナァーンだ、たった十キロか。」と馬鹿にしたものでもない。家庭用の、小さい〝ビン入り七味〟の六百二十五本分。普通の家庭なら、一本で三ヵ月や四ヵ月はもつから、百五十六年分にあたるわけだ。ちなみに、一ふりで出る量が〇・〇四〜〇・〇六グラム。一杯分〇・一グラムとして逆算すると、ざっと二〇〇、〇〇〇杯分。つまり、一年間に、一〇〇、〇〇〇杯のうどんやそばが、みなさんの胃袋におさまっているというわけ。食堂のおばさん御苦労さま。

体育協会功労賞に政岡先生

剣道・居合に対する功績で

昨年十二月二十五日、高新ホールで、高新スポーツ賞及び、体育協会功労賞の受賞者の表彰式が行なわれ、本校の政岡先生が、体育協会功労者として表彰された。この賞は、県体育界の発展に貢献してきた人を対象に表彰する賞である。

政岡先生は昭和三十二年、本校に赴任され、漢文を担当せられながら剣道部顧問として、本校の剣道部を指導してこられた。

又、体育協会役員として、当時全く捨たれていた居合道の再興、組織作りに専心努力され、剣道を通しての青少年の教育に大きく貢献された。

同先生は、明治四十四年に、一中（現追手前校の前身）在学当時に剣道を始められたのを契機に、それ以来ずっと、剣道、居合道の修練を積まれ、現在では、剣道教士七段、居合道範士九段である。

うれしかったです

野球部二賞を受賞

昨年十二月十七日、高新ホールで四十一年度高新スポーツ賞の表彰式がおこなわれ、本校の野球部が昨年春の選抜野球の実績などをかわれ団体、個人ともに表彰された。個人で表彰されたのは、昨年春、甲子園で活躍した上岡（三K）、秋田（三H）の二選手。

昨年度甲子園にて

笹岡議長不信任案通過す

—後任に森本君—

二月七日、高校生徒委員会で、二Kの委員より笹岡議長（二K）の不信任案が提出され、議事にかけられた結果、満場一致で可決された。笹岡議長は議長就任当時より、身体上の理由で辞意をもらしており、予算会を前にしてこれ以上議長の仕事をつづけることは困難であるというのが不信任案の提出理由。

なお、そのあとすぐ新議長の選出がおこなわれた。そして、副議長の池本陽一君（三D）が議長に昇格、副議長には一Kの森本泰司君が選ばれた。

中山先生御逝去

去る一月五日本校にその人ありと知られたオンカンこと中山駿馬先生が県立中央病院で、結腸ガンのため、なくなられた。

中山先生の直弟子でもあり、同じ生物を担当されている永野先生に、想い出を語ってもらった。

永野先生談

「恐い顔をしているが、おとなしく、気ばやさしいきに、心配せんと近う寄りや。」これは、先生と二人で旅行をした時、ある宿屋での先生と女中との会話です。一瞬あっけにとられてしまったが、先生の気持ちがわかると同時に吹き出してしまいました。中学時代より現職につくまでの長い間教えられる事ばかり多くて、御恩返しもできないうちに他界され、しみじみさびしさを痛感しています。奄美大島・沖縄・八重山の旅を思い出すたびに、先生の穏やかな人柄を頭に浮べ、なつかしく思われてなりません。

故中山先生

中山駿馬先生略歴

昭和二十一年一月十八日土佐中高等学校教諭となる。

昭和三〇年八月高知新聞主催奄美大島学術調査団員として参加

昭和三十五年十月高知新聞主催沖縄・八重山学術調査団員として参加

天皇陛下御来高の際、生物に関心をもっておられる陛下を御案内された。貝の研究の権威者であった。

ひとこと

○…我国には数多くの小学校中学校・高等学校がある。そして、その中には、修学旅行を年中行事としていない学校はほとんどない。本校でも、毎年、春と秋とに中三と高二がそれぞれ、修学旅行と称して旅行をしている。だが、修学旅行に行く多くの生徒諸君の中に、修学旅行の意味というものを考えてみたことのある人が、はたして何人いるだろう。ただ、皆といっしょにあちこちを見てまわり、おもしろおかしく、一週間を過す者が多いのではないだろうか。

○…修学旅行を終えた高二の中には、無意味な旅行だったという声が少なくない。つまり、観光旅行でもなく、見学旅行でもない目的のはっきりしない妙な旅行だったというのである。つまらない観光地で時間をつぶし、ゆっくり見学したいところは通り過ぎただけだったというのだ。

○…修学旅行は学校の行事であり、授業の一環として行なわれるものである。だから、物見遊山的な旅行であってほしくはない。しかし、昨年の高二の旅行は、物見遊山的な色あいが相当に濃いといえる。熱海・富士五湖・東京・日光など、観光地をただ観光地として、上辺だけ見物してまわっただけである。

○…修学旅行は、あくまでも授業の一環である。旺文社の国語辞典には〝実地見学のため、先生に引率されてする旅行〟とある。ところが、本校の修学旅行には、〝見学〟という要素がどの程度とり入れられているだろうか。本校の修学旅行のそれははなはだ貧弱なものである。実地見学というよりは、むしろ見物に近い。見物旅行である。その、いい例は、自由時間が夜にあるということである。上野の旅館からは、上野公園が近い。しかし、夜は、どこの博物館もしまっている。それとも東京の夜を〝実地見学〟しろというのだろうか。

○…見物旅行に高い金を出し、一週間もの貴重な時間を費して何が残るというのだろう。少なくとも、若者は、ヤシウマ的な見物旅行などをするべきではない。言いかえると、旅行のあとで、何か——自分の為になる何か——が残るような旅行を、若者はしなければならないのだ。

○…来年度の高二の修学旅行はどこへ行くのか、まだ確定していない。しかし、どこへ行くにしても、行先やスケジュールを充分に検討して、意義のある旅行にしてほしい。そして悔いのない修学旅行に——。

（S・Y）

修学旅行廃止論！？

中一・中二は雨ざらし

現在中一・中二の自転車置場には屋根がない。だから雨が降るとずぶぬれになってしまうという現状である。それで、新聞部では、自転車置場に屋根をつけることの賛否のアンケートを、中一を対象に行なった。置場に屋根をつけると廊下が暗くなる、照り返しがある、などの諸条件をも加味して考えてもらったが、結果は、表2のように約二対一で賛成者多数であった。

これについても高崎先生は、「置場に屋根をつけるとよいことはわかっている。しかし、通路が せまくなる、外観が悪くなる、非常時用の通路のためにもつけない方がよい——これは消防署に申請しなければならないからむずかしい——などの点から決めかねている状態だ。」とのこと。しかし、現在の中一・中二の自転車が露天にさらされているように、毎年の新入生の自転車も、屋根をつけない限り、雨ざらしになるのだ。又、非常用通路としては、テニス・コートのへいのように非常の時は、押し倒して、その上が避難通路になるような建築にすればよい。照り返しとか、廊下が暗くなるということは、費用は少し高くなるがビニールトタンを使うと解消する。

来年度は、規制範囲を広くしても、現在の屋根のある置場には入りきらないという見方もある。

従って、そこに新しく、置場に屋根をつける必要性が生まれてきている。

「…ると見なすので私としては交付せざるを得ない。」

かきのこし

お隣の中国では風が吹きまくっている。〝毛沢東思想〟という風である。その風に〝革命造反団〟という小石が飛ばされて、大きな被害を与えている。中国の〝有力者〟たちは、風の中の木の葉のようなものである。〝明日は明日の風が吹く〟というような気持だろう。その風の眼にいるのが毛沢東、というわけだろうか▼同じカゼでも字の違う風邪。その一種である〝風疹〟なる病気がはやっている。本校でも、かなり患者がいるようである。一クラス五〜六人は休んでいる。もっとも、この病気は主に小児がかかるものだそうである▼立春は過ぎたものの（立春がいつだったかを知らない人は暦でも見てください）まだまだ風は冷い。学校から帰るのが少し遅くなると、寒くて〝こりゃあ心臓マヒでもおこすかも…〟なんて思うのもしばしばである。こんなに寒いから、よく火事がある。まさかタキ火をしたいわけではないのだろうが、とにかく多い。考えてみれば、この寒空に焼け出されるなんて悲劇である。火の元だけは気を付けたいものである▼さて、風に関することでもう一つ。風景のことである。公園などに行ってみてよく感じる。なぜ〝チリを捨てるな〟という立て札が立っているのだろうか。よくよく観察してみると、その立て札の下あたりが一番チリが多いようである。立て札がいい目標になるからだろうか。それとも、土佐の〝イゴッソウ〟精神がなせるワザなのだろうか。そういえば、公園のチリ入れでは、中に入っているものよりも、まわりに散らばっているものの方が多い、なんてのもよくあることである。ところで、宮沢賢治に「風の又三郎」という小品がある。なんとも言えない魅力を持った作品である。風と共にやって来て風と共に去って行った又三郎。この作品を読むと、今まで忘れられていたホンボノとしたものが帰って来るような気がする。たまには〝太学生の読む本〟の代わりにこんな作品を読んでみるのもいいのではないだろうか▼もう二月である。我々は若者として、世間の悪い風潮をはねのけ、日本の美しい風景を守り、風邪もひかず、フトコロを走る寒い風にもめげずに、やがてやってくる、四月の暖かい春風を向かえようではないか。

（S・O）

校友の店
クツの高雅堂
高知市帯屋町一丁目　TEL ②2960

土佐中・高指定
運動服店
高知洋品
高知市帯屋町大丸デパート西

御入学・御卒業の記念に
御安心の出来る川村の時計を
川村時計店
オビヤ町　TEL 代③7181

ご進級　御入学記念に!!
万年筆・アルバム・地球儀を
株式会社 中岡文具店
帯屋町　高知スーパー西隣
TEL ②2784 ③3008

街をゆく　幸せを
ふくすけや

ご進学のご準備は
大丸の学用品で
高知・京町
高知大丸
平日6時・日曜6時半
電話②5111・月曜定休

先生と生徒

教育不在？共に交流を求めているが

相方の積極性が原因か

「本校での先生と生徒のつながりは充分か」という質問事項に85パーセントが「充分でない。」と答え、80パーセントが「もっと良くしていかなければならない。」としている。ここで気がつくのは「充分でない。」と答えた者のうち5パーセントは、もっと良くしていこうという気がないということである。この5パーセントの者の、その理由としてあげられていたのが「現在、先生と生徒のつながりは充分でなく、それではいけないとは思うのだが改善していこうとする暇がない。」という風な事柄だった、いわば、勉強におわれている"という形である。また「つながりは現在のままで充分だ。」と答えた15パーセントの者で4パーセントを除く11パーセントは「先生と生徒とのつながりなどは必要ない。」としている。その理由としては、「我々には、大切な勉強というものがある。先生と生徒との関係は二の次である。」「大学入試の為。よく皆がいう『教科書の勉強だけでなく、人格形成という面において先生と生徒の関係なんかも考えてみなければならない』というのは一応もっともな道理のようだが現実はもっときびしい。だから、勉強の方に精を出すべきだ。」があげられていた。しかし、大多数の者が「先生と生徒のつながり」を大切なものとし、学校の方針も「勉強にのみかたよらない人間をつくる」というものである。新聞部としてもこれが大切なものであるという結論を得たので、以後これを必要なものとして話をすすめてゆこう。

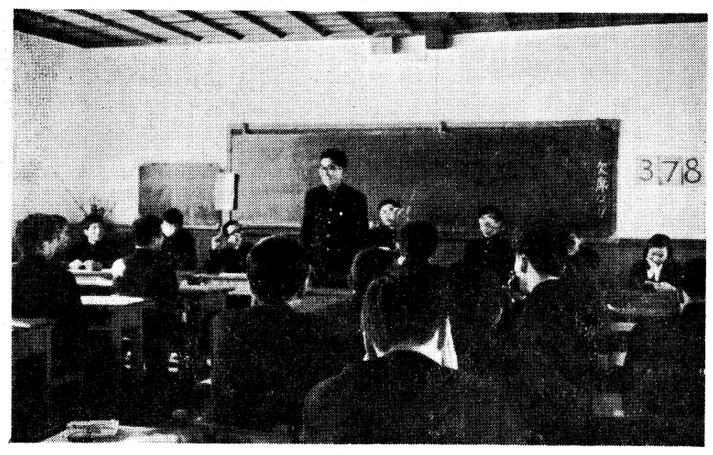
「先生と生徒のつながりを良くしていかねばならない」と答えたのが80パーセントの多数だったのに比べて「私は先生と交わる様に努力している。」と答えたのが47パーセントと大幅に減っている。これは何を意味するのだろうか。

「努力していない。」と答えた者は38パーセントで、その理由としては「先生は何となく近づきにくい。」「先生はこわい。」「はずかしい。」「先生は生徒に関心がないようだ。」交わるチャンスがない。」があげられていた。これより、生徒の消極性と、先生が生徒に一種の不信感・おそれをもたせるような行動をしているのではないかということが考えられよう。今までに勉強以外のことで先生に相談をもちかけたことのある者は20パーセント。生徒の多く72パーセントの者は一度も相談したことはない。どうして相談しないのかという理由は、「どうして交わるように努力しないか。」の理由と同様に「先生には近づきにくい。」「土佐の先生は機械みたいだから、機械に相談しても仕方がない。」「親身になって考えてくれない。」「たよりない。」「相談に値する先生がいない。」「教師の仕事を一種のビジネスと考えている先生が多い。」等々。生徒がこういう考えをもつに至った原因は何だろうか？授業についてのところでも出ていた「本校の先生は忙しいから。」「先生方との年のひらき。」「熱意のない先生。」があげられていたが、やはり生徒自身で生徒の消極性をも認めている。さらにもう一つ考慮すべきことがある。それは、本校の先輩・後輩間のつながりである。つまり、中学時代はすぐ上に話の合う高校生がいるし高校生は部活動などを通じてその先輩の大学生、さらにその上の先輩ともつながっているわけだ。そこで当然先生の占めるウェイトも少なくなってくる。本校の先輩と後輩のつながりは他校のそれより非常に強力なものである。先生は「ふだんあまり話し合わない生徒達とは、つとめてこちらから話しかけ交わろうと努力しているつもりだ。しかし、そういう時に生徒の方に逃げられてしまうと、もうどうしょうもない。そういわれてみれば我々も生徒に不信感をおこさせるような行動を知らず知らずのうちにとっていたのかもしれない。我々も確かに反省してみる必要がある。」とのお答えだった。

今までは、生徒は先生を近づきがたいものと決めこんでしまっていたようだし、先生は、生徒がそれほどまでに先生と交わりたいと思っているという裏づけを持っていなかった。それで、共に小さな不安を持ちながら消極的になりすぎていだようだ。やはり、ここでも「両者共に積極的な働きかけが必要だ。」という結論にとどまる。

先生と生徒のつながりを良くしてゆくための具体的な例として、生徒の考えを掲げてみよう。

○屋外活動（キャンプ・ハイキング・旅行）
○先生対生徒のスポーツ大会
○共同行事を利用
○H・Rの時間を利用
○先生を交えての話し合い
○学問を先生と共に語る
○相談をもちかける
○休み時間・昼食時間をいっしょに過ごす
○いっしょに掃除をする
○先生の家を訪ねる
○部活動をさかんにして顧問と親しく
○サークル活動
○一クラス六十人を少なくする



あるクラスでのH・R風景

はたして先生は参加されているだろうか？

の挑戦状をとりのぞけ！

生活になれっこになってしまっている。しかし、はたして今のままで満足していていいのだろうか。
に意欲のある充実した授業を行なっているだろうか？先生と生徒のむすびつきという ものは満足できりはしないだろうか。
のある充実したものとなっているだろうか><本校の先生と生徒の結びつきは充分な ものだろうか>
がい、双方の意見の比較・検討と他校との比較によって、読者に、現状批判と、各自の これからのと

授業に情熱を

アンケートに「先生は生徒に対し情熱をもって接して下さっていると思いますか」という問を出してみたところ、YES44パーセント・NO33パーセント・棄権23パーセントという結果になった。他の統計と一風変わった結果になっている。NOがこれほど多いのは正常なかたちだろうか。

情熱をもっていないようだと答えた生徒達の考えるその原因は、多くが「土佐の先生は忙しい。」「年輩の先生が多い。」だった。先生にうかがってみると「土佐の先生は――理科の実験の用意などに忙しい先生をのぞくと――他校の先生より忙しいなどということはない。年輩の先生が多いというのは認める。しかし、情熱がないというのと、年輩の先生が多いというのは関係ないと思うが。」校長先生も「本校の先生が他校の先生より忙しいということはないはずだ。」と言われる。確かに、計算してみると、勤務時間・教えねばならない単位数などは他の公立校の先生との較差はない。こうしてみると他校の先生と何ら変わったところはないと言える。ところが、本校では試験が多いのである。ある先生は「うちの学校の先生が他校の先生より忙しいといわれるのは、うちの学校の試験が多いところからくるものだ。」と言われる。もう一つ、本校の先生の教えねばならない単位数が他校のそれとちがわないにしても、そのうちわけが他校よりも広範囲になっている点（極端に言えば、他校の先生が高一ばかり六時間をうけもつのに対して、本校の先生は中一から高三までをそれぞれ一時間ずつうけもつといった具合。）それで本校の先生の、授業についての検討・調査の時間が他校の先生のそれより多くを必要とすることになる。このように"試験""広範囲の授業"によって、本校の広先生が忙しくなっているというのは事実である。ここでも"試験が多い"ということについては本校の教育方法というものがからまってくる。"広範囲の講義"では先生の数を増す、あるいは、中学・高校の分離によって中学・高校かけもちの授業をされる先生をなくすなどの方法によって、講義範囲をせばめる事も考えられる。これには学校の運営が大きく関係する。「年輩の先生が多いことが授業に情熱を持たない先生が多い原因だろうか。」ということについてある高一生は「たしかに年がちがいすぎるということは、両者の考え方・見解の相違が大きくなることだとも言える。もちろん、年輩になるほど気力がなくなるということも言えるかもしれないが、本校の先生の授業に対する情熱の有無は年に関係するばかりは言えないと思う。年輩の先生でも、授業に意欲をもって努力して下さっている先生はたくさんいらっしゃる。その努力をかうべきだ。年令に相違なく、授業に情熱を持たない者は教師の資格はない。」と言っている。統計によると、若い先生がほしいという考えは低学年になるほど多くなっている。

「情熱のない先生ができるのは生徒にも責任があるとは思いませんか。」の問に対して、思う36パーセント・思わない18パーセントとなった。こうしてみると、生徒の言い分はだいたい次のようになる。「土佐高には情熱をもって接してくれない先生が多い。しかし、先生がそうなった責任の一端は生徒にもある。」その理由として生徒を"本真面目だ""反抗的だ""別に先生と交わろうともしていない""利己主義"などをあげている。しかし、これらは自己批判ではなく、自分を除く他の生徒を批判したものである。結局、アンケートにあらわれた生徒の考えの多くは、非を先生と他の生徒とにおしつけているところが少なからずある。今のままの考え方では、充実した授業はまだまだかなえられない。生徒はまじめに、先生はこれまでのようにいつも生徒から何かもちかけられるまで自らは何もしようとしないということをやめて、お互いに積極的にはたらきかけようというのが互いの希望であるようだ。

末端の一端

またもやズックを盗られた。高三になって四足目である。

"使用窃盗"という言葉の有無は知らないが、盗るだに悪意が無いのであるからよけいに腹が立つのである。もはや、土佐においてはモラルの低下を嘆く資格は無いのではないか。モラル自体が存在しないように思われる。現に、我輩は自分の靴を見るたびに、「有ル、有ル。」とほくそ笑むのであるから全く世の中は真違っとル。学校側もさすがに見かねてか、先生曰く、「近頃、よく靴が盗られるようだから、新しい靴はなるべくはいて来ないように。学校は一々責任は持てんからネ。」どういう訳だ。学校はドロボーが外部の者だと信じて疑わないんカイナ。

又、責任は持てないなんて虫が良すぎはしないだろうか。遠い昔の小学時代。あの頃は良かったネ。ズック一足でも紛失しうものなら、先生は嘖くなる迄一諸に捜して下さった。あの頃は時代が良かったんだネ、きっと。とにかく、「生徒の自主性にまかす。」などと言っていたら、土佐の発展はないヨ。ホント。土佐の生徒もそこらの"男の子"と変りやしないヨネ。オソマツ。（高三・男・九月某日の日記より）

授業態度をまじめに

土佐高の諸君（特に高一）に一言いいたい。君達の授業態度たるや、あきれてものもいえない。授業中に、手紙を回したり、内職、昼寝をする者はザラである。ひどい者になると、弁当を食べたり、授業をさぼりブラブラしている者もいる。休み時間と授業中の区別がまったくできていない。これが土佐高生たる者の授業態度だろうか。高校は義務教育ではない。君達は高校を何と思っているのか。朝、弁当持って学校に来て、午前中の授業をさわいで腹がへったら休み時間にその弁当を食べ、昼休みには食堂でウドン食べて、午後の授業は昼寝。これでは、高い授業料を納め、何の為に学校に来ているのかわからないではないか。高校生ともなれば、もう少し一人一人の自覚をもちたいものだと思う。（高一・男）

将棋同好会をつくろう

昨年一月、中三学生囲碁・将棋同好会を作ろうとしたが学校から許可はおりなかった。高校生もいないし家でやればいいという訳である。しかしそれでは……。

現在夏休みに昭和薬大主催、朝日新聞社、日本将棋連盟後援の高校将棋選手権大会が行なわれている。これは高一時代などでも紹介されているから存知の方も多かろうが、実に北海道から沖縄まで二百六十一校が参加、それも男子ばかりではない。これは主催者が寮の開放などで遠隔地の高校の為に準備をしてくれた事も大きな要因であるが最大の原因が各校の理解にあることは否めない。囲碁（同じ頃全国大会があった。）将棋を現在物好きの道楽と考える人はもういないであろう。非常に高度な知的スポーツである。精神力などと人は笑うかも知れないが、（そしてルールを知っているだけくらいの人は否定するかもしれないが）事実精神力の養成には抜群である。囲碁とは全く別個のものであるにもかかわらず、片方の強い人が大抵もう片方もできるというのは、考えるという態度が同じものであるからだろう。そしてそんな事を認めて下さる先生方もいらっしゃった。しかし最後に「高校生がいない。」と拒否された学校の考えもわかる。中学生のことだから駒に戯かれ勝負におぼれはせぬかという暖い配慮であったのだろう。

誠に資料不足だが一つ中学で将棋部を成功させている例を知っているのでご紹介する。平塚市立天野中学将棋部である。ここでは「道」という厳しい規則があり、「会員はその本分が学業にあることを重んじ……。」と細則があり違反者はただちに退部である。そして放課後に練習があり顧問の先生と共に心を練る。反省記録から抜粋させてもらうと次の様な効果を上げている。一、思考力・判断力が養われる。二、礼儀作法が身につく。三、落ち着きが出て来る。四、辛抱強くなる。五、自主性がついてくる……等である。これは本校に囲碁将棋の同好会を設ける主旨と合致する。礼儀作法についていろいろいわれている現在、特に二、三など学校の方針ともピタリである。そして高校選手権の主旨（精神の健全な発表）とも同じである。将棋ばかりで碁が出ないといわずにもう少し聞いてほしい。碁の話をする。碁があの様に世界に広がりつつあるということは、それが優れたスポーツであるという事をあらわしている。あの広い盤面をみる冷静さと判断力は他の物に求めることは難しい。前述の効果と同じものがここでも得られるであろう。

さて、その様な会を本校にどのように設置するかが問題である。これがしっかりとしていないと運動しても前回同様認められぬであろう。先ずそういう人数が居るかハダで感じた所によれば同好会をつくるに十分なほどの人数はそんな会の置かれることを望んでいる。次に用具である。これは会の備品として必ず要る。最初は最低限の金を出しあって揃える。又相談の上各人持ち寄ってもよかろう。第三に場所、これは会の性質上特定の場所（グランド等）が必要でないので放課後の教室を借り管理を十分にすれば熱意で補えるものであると思う。第四に時間だが、放課後のみ。他のクラブと同じ時間である。最後になったが顧問の先生であるが、学校がこの会の意義を認めてくれた後、皆でお願いしてみようと思う。（この先生がいないと会はできない。）

以上簡単であったが一応の考えを発表した。今各部それぞれの目的で存在している以上前記の目的をもつ囲碁将棋同好会が成立しない理由はないと思う。心から学校にお願いして会の設置を望む。（高一・男）

遅刻をやめろ！

最近の遅刻の多いのには驚かされる。その中で、高一は特に多いそうで、ボクのクラスなんかも、毎朝必ず二、三人は遅れてきて、ひどい日には大方二桁になりそうになる。

遅刻する奴らの面はたいてい決まっていて、中にはニコニコしながら教室に入ってきたり、ホームルームが終わるまで昇降口かどこかで待っていて、教師が帰ってしまってから悠々と教室へ来る。こういうのは案外女子に多い。大体遅刻したという事は、一日のしょっぽなから、学生としての義務を怠った事になる。

ボクが考えるに遅刻の原因は大部分が朝寝坊にあるようだ。何度も言うようだが、学校は団体生活の場であって、始業時までに登校するというのは、学校へ通っている者なら当然の義務である。団体生活のルールを破ってまでしなければならない事ならしないのが当然と思う。

次に朝の事である。これは、理屈では解っても実行するのはなかなか困難である。ボクの場合を例にとって書けばまず午前七時、第一回目の起床ラッパが鳴る。この段階では半分眠っているようなもので、半返事をする。第二回目は七時半頃でこの辺では、完全に起きているのだが、薄団から出るのがおっくうである。それで七時五十分頃起きて、教室へはいったと思ったら三十分のベルが鳴りだす。とにかくそれくらい朝は起きにくいものである。

これから遅刻を少なくするために、もう三十分早く起きたらいいではないか。月並みな事だが、一番確実である。つまり二度目の起床ラッパが鳴った時、目をさまし、薄団から飛びだせばいい。これくらいの事が出来ないようでは本校へ来る資格なし。昔から"早起きは三文の得"なんて言われているくらいだから、早く起きて損することは絶対にないのである。その他いろいろ方法があるだろうが、土佐校生諸君！我らのボロ校舎から遅刻をしめだそうではありませんか。（高一・男）

☆　☆　☆

コンニチワ故郷

(一) 雪蹊寺

長浜の車庫前から西へ歩いて約五分、秦神社に並んで雪蹊寺がある。門もなく、塔もないひなびた寺である。高福山・雪蹊寺と刻まれた二本の石柱の間を通って境内にはいると、右手に空海の開いた四国八十八か所の第三十三番の札所、左手に馬頭観世音菩薩を祭った堂、そして正面には一段さがって本堂がいらかを並べている。住職の山本玄宙さんの案内で本堂の裏手に行くと、白壁のこじんまりした建物の前へ出た。八年前にできた霊宝殿である。内には、正面に本尊と両脇侍像、左右に十二神将立像が安置されている。これらはいずれも鎌倉時代の木彫で、国の重要文化財となっている。鎌倉時代の名匠運慶の作という本尊薬師如来座像は、日光菩薩・月光菩薩を両脇に従え、両眼と額の白毫にはめこまれたガラスが、異様な光を放っていた。十二神将像は、道雲・海覚の作で、腕がなどがかなり破損しているがいきいきとした力強さが感じられる。

このほか満慶作の吉祥天像など、三体の寺宝が奈良国立博物館に出陳中ということである。

皆様の――お帽子の店
土佐中高指定
元田帽子店
高知市帯屋町2丁目南側
TEL②2951

書籍　雑誌
ニュー高知西端
明文堂
新京橋
②6395
③6956

イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町 電②0998番

米沢サンゴ店
京町　②―4242
ニューコウチビル⑤―4242

皆様の楽しい寄道
レコードショップ
エリート
ELITE
☆学生諸君歓迎
本店　中の橋通南入二軒目　TEL③1082
支店　中須賀電停北入東五十米　TEL⑤4666

楽しい学生生活の記録を
あなたのアルバムに
キタムラ
堺町19　TEL②3154～6

白亜堂の万年筆で勉学を
白亜堂
帯屋町東宝劇場西三軒
TEL②2473

本のデパート
片桐開成社
本店　京町角　支店　五丁目
電話②0953・2774・8583・1032

音楽愛好家の皆様の店
クラシカルレコード専門店
楽聖
三条通電停北三軒目　TEL③―1009

電気器具は
京町
穂積電器株式会社
TEL②6646
③4716

土佐校へ
三つのガン

現在、生徒の多くは、学校生活にそれほどの不都合は感じていない。多くは現在の学校制度・学校本校の〝設備〟は足りないものだらけである。これを改善する方法はないだろうか？先生・生徒ともる状態にあるだろうか？学校生活でのこの三つの疑問符につき、今一度、我々は考えてみる必要がある。

新聞部では中１～高３それぞれ１クラスで<本校の教出設備は充分だろうか><本校の授業は意欲という身近かな三つの問題についてアンケートをとり、また、先生方のご意見もできるだけ多くうかるべき道を考えてもらおうと試みた。

これだけ？器具、薬品。

もうはいらない（化学準備室）

本校の病点
足りない学習設備

アンケートの結集、94パーセントの生徒が「設備は非常に足りない。」と考えている。先生方の答えも同様なので、本校の設備不足は明らかである。そこで〝理科の実験器具不足〟〝英語科のテープレコーダー・プレーヤー不足〟〝体操用具不足〟の三点が問題としてうかびあがった。

理科

生徒の80パーセントが「実験は充分に行なわれていない」と考え87パーセントが「もっと実験をすべきだ」としている。先生は「もちろん実験はすべきだ。より多くやるにしたことはない。たしかに現在、実験は充分には行なわれていない。しかし、それにはむづかしい原因が三つあるからだ。第一に施設がない。今、実験器具はいちおう充分にあるが、それを使いこなせるだけの施設がない。たとえば、実験室が三つしかないこと。その三つを中学・高校が共に利用するのだから……。準備室も二つだけだから、内部は器具類で飽和状態だ。第二に、一人の先生が多くのクラスを教えているのでそれら全部の実験の用意をするということは本当になみたいていではない。第三に、授業時間が足りないこと。教科書だけでやっても相当スピードアップしなければならないという進度だから。結局、第一の原因は新校舎を建築しないうちは解決しない。第二の原因は先生の数を多くすればよいが、現在の学校の状態からではまだ無理だろう。第三の原因も、本校が公立校なみに、三年間で三年間の教科を終えるという方針をとらない限り除く事は無理だろう。」との事である。この言葉の中の第三の原因は、本校の方針が大学進学を中心に考えるべきか、一般校と同様に三年間で三年間の教科を勉強すべきかということに関連した重要性をもっている。先生方もできるだけ実験はしていきたいと考えているが、これらの三つの原因はすぐには解決しない。そこで先生方は、ある実験をしたいという有志の小グループでもあれば、放課後を利用して実験の許可を与えようとされている。

英語

生徒の72パーセントが、本校の英語教育では発音力がつかないと、76パーセントがもっとテープレコーダー・プレーヤーを使った授業をすべきだとしている。68パーセントが外人教師を招きたいと答えている。先生は「たしかに、私達日本人教師に教わっているだけでは発音の力はつきにくいかもしれない。プレーヤーは中学で少しは使っている。しかし、テープの方は吹込みをやらねばならないそうすると、だれか外人にたのみに行かなくてはならない。これはなかなかむづかしい。それに、何しろ今は、英語科でレコーダー一台、プレーヤー二台しかないので……。できれば共にもう一台プラスしたい。新校舎になればL・L（語学練習機）の装置を設けたいとも思っている。外人教師も、週二時間ぐらい習えば相当上達するだろうが、それ以下だとあまり効果はあがらないだろう。これは学校の経営とも関係してむづかしい。それに、授業の進度がはやいので、しぜんと発音を重視しなくなってしまう。大体において、一クラス六十人いるのからして英語の授業には適していない。せいぜい二十～三十人までだ。」といわれる。進度がはやいので、しぜんと発音を重視しなくなるという点は、さきにあげた、理科の実験がおろそかになるということと同様に、本校の教育方法の欠点の現われとなっている。一クラス六十人というのは、新校舎建設の際にどうするか問題となるが、学校側はまだこれについては考慮中であるとのこと。外人教師について、校長先生は「あまり効果のないものだ。」というお考えだった。なお、現在外人教師を使っているのは清和のみである。二人の外人教師による週それぞれ一時間づつの発音と英会話は、相当の効果をあげているそうだ。

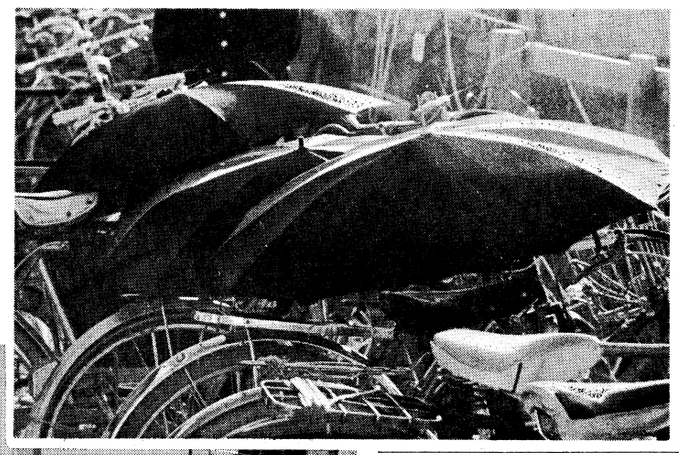
体操

生徒から「体操用具が不足している。」「一般生徒にも、放課後にボールなどを使用できるようにしてもらいたい。」との声があった。先生はそれについて次のように答えられた。「今、本校の体操用具は、必要の最低限度である。できればボールなどの消耗品は今の二倍ほどほしい。つまり、放課後などに一般生徒がボールを使用できないのも一つはこの〝少ない〟ということが原因となっている。以前は使用させていたが、生徒の管理が悪くて非常にたくさん紛失してしまった。それで貸出しを禁止して今に至っている。「ボール使用については、先生が使用者の名前を登録することを確実にし、返してきた者の名を消すという具合にすれば良いのだが、やはり、今の状態に至ったのは、無責任な生徒側に責任があるようだ。生徒が責任をもつようになれば、先生も考えて下さるとのことだ。

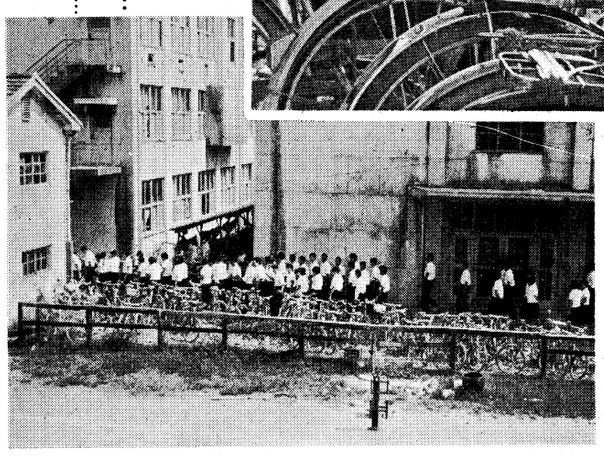
他に本校の不備な点を列記してみると、蛍光灯・掃除用具・ガラス・黒板・コンセント・開閉しにくい戸などだが、これらは、学校側に頼めば、すぐにでもなおしてもらえることばかりである。「学校側にたのんでも、なかなかなおしてくれない。」と訴える生徒もあるところから、このような小さな不備に対しては、生徒・学校双方ともに消極的といえる。今のこういうシステム（生徒は学校側にたのめばそれでいい。学校側は生徒から要求があるまで待っている。）自体が消極的になる元であって、生徒は自分達でなおせるところはできるだけやり、学校側も生徒の学習環境を良くするために、常に気を配るという積極的な方法をとれば、これらの問題はなくなる。

自転車場の問題は、現在、新聞部が交渉中。すでに担当の先生も考えて下さり、職員会議にもかけていただける予定である。

「便所を増やしてもらいたい。」「暖房がほしい。」「ロッカーがほしい。」など、実現しにくく、新校舎建設の時の要求とする。



雨が降れば　このとうり……



どうですこの自転車の多いこと

身につく学習を

全体を通じて、最後に二つ大きな問題が残っている。それは理科の実験不足・英語の発音軽視・大学受験が最大の目的か？という三カ所でなおざりになっていた本校の教育方法についてである。

現在、本校のかかげている教育方針は「身心共に立派な人間をつくる」という所にある。これを理科の授業にあてはめて考えれば、教科書の内容を理論だけで理解するのが「心」にあたり、実験によって修得するというのが「身」にあたると考えられよう。また、英語の授業でも英作・読解などを「心」、発音などが「身」と考えられよう。学校生活にあてはめてみたら、勉強が「心」、生活から得た経験が「身」になると考えられるだろう。そうした時に気がつくことは、現在、これら三つにあてはめた事柄の「身」にあたる部分がおろそかになっているという点である。現在、学校の方針と実際とにくいちがいができている。我々としては、学校の方針にあった教育にするか、現在の教育にあった学校の方針にするか、今のようにくいちがったままほおっておくか、三つに一つを選ばねばならない状態にある。本来の勉強の型としても「身」をおろそかにはできないはずだ。先生方も「理科の実験や英語の発音にもっと力を入れたとしても、授業の進度は少しは遅くなるかもしれないが、絶対に現在のレベルよりも低くなることは考えられない。」といわれる。我々としても、むしろ基礎力がつきしぜんとレベルも向上するのではないかと考える。

設備にしろ、学校生活にしろもっと内容のある、広い意味での勉強にすべきではないだろうか。

（S・K）

高三生座談会
－これからの土佐高生に望む－

エンジョイせよ
君たち独自の学園生活

――きょうは「これからの土佐高生に望むこと」という主旨で高三の方にお集りいただいたわけですが土佐高での三年間に皆さんが身をもって体験された土佐高の長所・短所あるいはその間の印象に残っていることなど一・二の方もざっくばらんに。おっつけお葉子も来ますから……（笑）まず卒業を目前にしての心境はどうですか？

D　もっさっさと早いとこ飛び出したい。気分がさっぱりする。

C　同感！何しろ高校を出てからやりたい事がたくさんあるからね。早う出たい。

B　僕は学園ともおさらばかと思うとどうも未練が残るなア…。

E　入試で頭がいっぱいだけどやはり早く出たいみたい。

A　僕もそうだ。

部活動は高二までやれ！

――三年間を振り返って感じることは？

D　部活動はもう一年やっていたらよかったてこと。高三になってから気がついたけど。僕は軟庭だったけど、高一でやめたのが残念でたまらん。

A　何といっても良い友達ができたということ。世間じゃ土佐は友情が育ちにくいなんて言うが、絶対そんなことはないと思う。

B　その通り。何ぼでもいい奴がおるもんね。（一同同感）僕は生徒会で教師いや先生とケンカした事が印象に残っている。何しろ勝ったきねえ。（笑）

C　実際、先生と対等に渡り合えるようなムードがあるのは土佐のいいところだね。自由だよ。

E　反面、自由すぎてピリッとしたところ、言いかえると厳粛さに欠けているのとちがう。高一に編入した時。中学時代とあまりのちがいにビックリしたけど……。

H　私も同感。卒業式なんかもっと厳粛であるべきじゃない。

B　僕は逆にそういうところが好きだった。悪くはないと思う。

C　少し話がかわるが、土佐には一体筋の通ってない人が多いのと違うか。何でもぱっと結論を出したがる。先生や友達が言った事を「はい、そうですか。」とすぐ受けいれてしまうんだ。もっと深く疑ってほしいと思う。

高三座談会風景（＝懇談室）

B　うん、時には先生に対して真底から腹を立ててみる事も必要だ。

A　疑ってのもいいが、学校で決められた事くらいは黙って守るべきだ。よく「遅刻する」と言われてもわざと遅刻を続ける人がいるが、見ていても不愉快だ。

C　反抗に酔ったらだめだな。

消極的だぞ、女子

――友達の話が出ましたがクラスの男女関係はどうです？

D　男女バラバラだった。女子はかたまってしまうしね。

C　共学の利点を生かしきれないでいるんじゃないか。もっとも変則的な共学のあり方だけど…。

A　最近学校の帰りがけに下級生のH・Rを見たが、ちゃんと男女別々に分れて何かやっていた。

E　男女は多いから優越感を持っているのとちがう？

B　というより、お互いに優越感とも劣等感ともつかない変な気持を持っているのが原因だろう。いっそう男子校にしたらどうだ。

F　冗談じゃない。（笑）男子も女子ももっと積極的になれば、フランクに付き合っていけるヨ。

E　確かに女子はもっと積極的にならなきゃいけないわ。

腹をわって語る先生が欲しい

――座談会も終りに近づきましたが、先生に対して何か一言。

B　腹をたちわって話せる先生がいなかった。

F　そういう面で生徒と付き合うためには結局若い先生でなければだめなのではないですか。

E　いちがいにそうとも限らないだろうけど、やっぱりそういう先生は欲しいと思う。

A　いろんな意味でもっと弱いにいる先生が多いのが残念やった。

E　私も校長先生なんて、まるで関係なかったみたい。

B　生意気な事言うようなけど授業だけのつながりでなしに、先生の方からも、もっと生徒に近づいてきてくれる、そんな教育をしてほしいものだね。（一同同感）

――最後に、土佐高生の気風がだんだん無気か化してきたとか、あるいは勉強しなくなったとか言われていますが……。

C　そんなことは先生方が毎年のようにくりかえしてるおどし文句でね。全く気にする必要なし。

D　そう。これからの土佐校生自身の手で思いっきり学園生活をエンジョイすればそれでいいんだよ。

C　要するにこれからの土佐高生次第なのだから、今日みたいに我々高三が「これからの土佐高生に望む。」なんて言ったって大した意味はないってことだ。

B　そう言ってもらえばみもふたもないね。（一同笑）

――今日はどうもお忙しいところをありがとうございました。

出席者（敬称略）

中村　憲一（三T）
広地　洋（三T）
大久保節士郎（三H）
永森　誠一（三H）
長　和子（三N）
長野　泰二（三T）
山野上光枝（三S）
中村　惠子（三O）

（AIE高三生）

先生出番です

①小松博行先生

イギリスのさるお偉方が、渡仏してフランス語を勉強していた。学成って（？）帰国の際、お礼に先生の為に何でも致しますからと申し出た処、教えた先生声をひそめて、そういうお気持があるならどうか私に習ったということだけは言わないで下さい――。フランス語入門書の末尾に出ていた笑話である。

今、母校就職二十年目を迎え私の懐く危惧は正にこの笑話の逆の場合である。先生が私を教えたということだけはどうか言わないで下さい、とおちこち（遠近）の俊秀から聞こえて来そうな気がするのである。現に、二十年勤めて何もしていないじゃないか、と普通なら言い難い批判を敢えてくれた向きもあり、全く慚愧に耐えないと言うべき処である。

二十年目の哀歓

ところで、仕事というものは、単に生きるたずき（方便）としてでもそうだろうが、よい仕事を真面目にやるとなると「何をやっても楽じゃない」である。教師という仕事も例外ではない。心なき人の羨しがるほど暢気なものではない。私は、授業、生活指導、クラブの顧問、クラス担当等々、どの一つをとっても人並みなものはないようである。殊にクラス担任は、自分の体臭がそのまま伝わって若い人に決定的な影響を与える場合があることをおそれて、終始遅げ腰である。しかし、にも拘らず、私のせめてもの慰めは、オーソドックスではないが、小松調とでも呼べる一つの教師像を作り上げたと認めてくれた友人があり、また何かデモーニッシュなものの作用でもあろうか、極めて内面的な繋がりを保ち得ている幾人かの教え子が存在して、中には世界の各地で活躍をはじめている人もいることである。臼井吉見氏のように、「二十年目のエンマ帖」を準備すると満点の書き込める人々のいることは、私のささやかな歓びである。

今回から先生方・先輩方の思想の一端を発表していただく欄を設け、先生・先輩・生徒が共に考え合っていきたいと思います。なおここに掲載する文章の責任は筆者と新聞部とが半分づつ負うことにしたいと思います。

――編集部――

サンゴはぜいたく品ではありません
りっぱな工芸品です
土佐の名産サンゴにカツオと
全国に知これています
土佐名産サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目
ＴＥＬ②０３５８

信用あるお店で安心したお買物を
通学用・旅行用・かばん・袋物
マエダ
かばん店
高知市帯屋町18　電話②８６００・８６０１

寿し柳
本店　高知市八百屋町八　電話　⑤０１０１
別館　高知市掛川町二五　②８４４８
支店　高知市帯屋町九○（公設市場内）②５３７３
支店　高知市堺町（県交ビル地下食堂）②１２２１
支店　高知市帯屋町104　文教会館内　⑤５２６５

〝土佐名産〟
特産〝金波〟
立石蒲鉾店
高知市京町４
大丸東側　ＴＥＬ②６２７９

〔女子〕別誂　制服
学生服　既製　別誂　〔男子〕
入交学服
○スクールセーター
○レインエート
○女子用　ソックス　ストッキング
中ノ橋電停前　ＴＥＬ②１７７６　②２７４４

紳士服装専門店
お誂紳士服
高級既製服
男子専科……ヤングマンコーナ
<土佐高制服、オーバー>
廣松屋
大丸北口前　ＴＥＬ②２３３８②１５２７

中学版

中学部員に独立を！

場所・予算に悩む各部

〝土佐中の部活動は高校のそれに付属しているのではないだろうか〟最近土佐中の部活動状態をみてみると、そう感じることが少なくない。そこで、新聞部では二Ｃ・三Ａ・一Ｓ・二Ｋを対象に部問題についてアンケートをとり、その結果を参考に、今一度それについて考えてみることにした。

現在本校では中学と高校が合同で部活動を行なっている。運動部の中には中学・高校分けているものもあるが、わけているといっても練習がわかれているのであって予算は中・高いっしょにもらい、高校生がサイフのヒモを握っている。また、練習も高校優先で、中学生は練習をさせてもらっている状態である。文化部をみてみると高校の部長のもとで、高校生として活動を発表している。

〝中学は部活動において、高校の付属品のようになっているのではないだろうか〟

最近一部でそのような声が聞こえだしたので、新聞部ではこの件についてアンケートをとってみた。その結果〝付属品のようだ〟と答えた人が四四％。では、その人たちはどんな点でそれを強く感じるのだろうか。その問に対して答えかたはさまざまではあったが〝練習および活動が高校生を主体としている〟というものが一番多かった。

一例として卓球部をみてみよう。卓球部の部員は現在三十五名いる。それに対し使用できる卓球台は四台、フルに使っても十六名しか練習できない。毎日三十五名が全員練習しないにしても、四台の練習台ではどう考えても、下級生は立ちぱっなしで球ひろいをして順番を待たざるをえなくなる。

練習用具・場所の不足に悩んでいるのは卓球部ばかりではない。バレー部やバドミントン部はネットの不足に悩み、バスケット部はシュート台の不足に頭をかかえ、その他もろもろの部がその不足状態を甘受しなくてはならない状態にある。上級生がその少ない練習場所で練習しているそばには、中一がおとなしく順番を待っているサッカー一コート分しかない旧グラウンドに、サッカー、バレー、自動車、バスケット、ソフトの各部やハンドボール同好会などがひしめきあって練習しているのだから、場所不足は当然の結果であろう。ある運動部の中三の生徒は「現在のままではもう、あきらめるより仕方がありません。何といっても場所がないんですから。それだけに、新校舎設立には大きな期待がかけられています。その際、練習は技術的な面での指導がうけられるので中・高合同でかまいませんが、場所・用具は十分あたえてほしい。できれば部室や予算を高校とわけてもらいたいんですが……。」と言っていた。

順番はいつくるのだろうか

また、文化部では、用具場所の不足はあまりみられないが〝中学独自の活動・発表がなされていない〟といわれている。たとえば文芸部の〝筆山〟だが、あれは、高校生を主体としたものである。文芸部の中二のある部員は「予算さえあれば〝中学生版筆山〟もつくれるかもしれませんが……。現状としては予算上今の形式を続けるしかありません。予算を中・高わけて、中学生も発表できるだけの予算をあたえてほしい。」といっていた。

それに対し予算小委員会は、「現在中学と高校の予算をわけて請求してくる部がないので、中学の部としての予算はあたえていない。しかし、もし中・高別々に予算を請求し、そしてそれが必要可能な場合、高校とは別に予算をあたえられないこともない。」といっていた。

予算の分化、新校舎への期待などの部でも切実な問題になりつつある現在、中学生の積極的な行動で、一刻でも早く対策を講じ、そして中学生もおもい切った活動ができるようにすることが必要ではないだろうか。

依頼心は捨てよう

自覚またれる土佐中生

「現在、土佐中は土佐高の付属品的な状態にある。言いかえれば土佐中は土佐高におんぶしている。」、「高校と中学校とが一緒になっている関係上、中学生は高校に頼ってしまっている。」というような声が生徒の間で聞かれる。事実、各部の部活動、執行部においても高校に押されて中学校の存在が軽視されているようだ。そこで、それについて新聞部では去る一月二十六日、中学生九名、高校生三名を招いて懇談会を開いてみた。その経過は次のようなものである。中一の生徒は、「中二、中三に比べると、学校生活があまり高校と結びつかないので高校を意識していない。」と言っているが、中三の生徒は、「中三だといっても最上級生という感じがまるでしない。小学校でいえば、まるで小学三年生といったような気がする。」と言っている。それでは他校の生徒（中三）はどんな気持ちで毎日を過しているのであろうか。おとなりの潮江中学校に行き、生徒に聞いてみた。ある中三の生徒は、「私は生徒会に関係しているが、中三になると最上級生として中一、中二の上にたち、少しでも学校を改善していこうという気持ちになるし、また、そういう自覚を持たされる状態におかれる。」と語っていた。懇談会ではその他、「中学生が思い切って行動できない。」、「中学生としての能力発揮の場がほしい。」、また、「校舎を分けてほしい。」というような事もだされたが、結局、「中学生という段階をフルに活用すべきだと思う。たいした事ができないとしても中学校は中学校で活動すべきだ。」という事で意見の一致をみた。また、中学側から、生徒議会、執行部が働きかけて分化できる部は分化したらどうかという案もでた。しかし、オブザーバーとして出席した高校生（高一）は、「中学時代は自分達だけでやりたいと思った事もあったが、今振り返ってみると、部活動面においては高校と一緒で良かったと思う。だから中学校が付属品的な状態であるという事にはいい面もある。」と語っていた。確かに高校と一緒であって良い面はあるようだ。例えば次にあげるような点である。第一に土佐高というものがどういうものかがよくわかる。第二に部活動や勉強の面において高校生がアドバイスをしてくれ、高校の良い面を取り入れる事ができる。第三に、高校に入る時、試験として中学三年間を反省する事も大切だが一方から見ると高校進学の心配がないので時間的余裕ができる、というような点である。ところで、校長先生は土佐中付属化について次のようにおっしゃっている。「土佐高と土佐中は密接な関係にある。そういう点において土佐高に付属化した中学校といえるかもしれない。しかし、現在の状態では付属化せざるを得ないとしても土佐高、土佐中は制度、あるいは指導面においてはあくまでも別のものであるので新校舎設立には一応、高校と中学校とは校舎、あるいは先生方、また、部なども分けたいと思っている。」結局、今の段階では現在の状態で高校の良い面を取り入れながら中学生としての自覚を持つという事が付属化打開への第一歩だと言えるようだ。

我らに光を

目立つ教育設備の不足

〝蛍光燈をふやしてくれ〟〝理科の時間実験をさせてくださる先生が少ないが実験設備がないのだろうか〟〝ガラスが割れてお金をはらったのに、一週間以上たってもまだいれてくれない〟最近しばしば生徒間のこんな会話が聞かれる。

教育設備の不足――では、生徒はどのような点でそれを痛切に感じているのであろうか。先日アンケートをとった結果、一番多かったのが蛍光燈が少ないということ、次に多かったのが理科の実験設備のこと、第三には体育館が狭く、設備が少なすぎる、と続いていた。

一、蛍光燈

ある日の放課後照度を測定してみると、Ａ教室は四燈で四〇ルクス、比較的明るいＢ教室は五燈で二〇〇ルクスであった。勉強室の標準照度は五〇〇ルクスである。雨の日などほとんどに〝近視になるのに適当な明るさ〟である。学校側は「配線が古いので今のままでは少しかふやすことができない」と言っている。梅雨にはいらないうちに何とか対策を講じてもらいたいものだ。

二、実験設備

「実験設備はあるのだが、実験室が少なすぎる。あれでは中学だけでも少ないくらいだ。それに、時間的にも暇がなくて実験の用意する時間がない」と某先生は言っておられた。現在本校には生物室、物理化学実験室、共通教室の三つがあり、それを中高合同で使っている。それでは他校は……？

たとえば学芸を例にとってみると、学芸は中学だけで二つ、高校と合わせば六つあるそうである。

たしかに本校の実験室は少なすぎる。新校舎ができれば実験室はふえるだろうが、現在の状態ではおいそれと新校舎もたたない。

〝百聞は一見にしかず〟簡単な実験なら教室でできるものもあるだろう。できるかぎり実験をさせてもらいたいものだ。

三、体育設備

昼休みに一番にぎわうのが食堂と体育館。生存競争と欲求不満の現われであろうか？

元来土佐中生はガリ勉（？）の集まりだといわれている。その土佐中生（運動部にはいっていないもの）につきものの悩みが運動不足である。狭い体育館体育用具の貸出禁止―これではいつまでたっても一般生徒の運動不足は解決できないだろう。

「以前は貸出をやっていたが、生徒の始末が悪かったので禁止した。一時は貸出人登録制で貸出していたが、又貸しをしたりなくしたり、無責任だったので廃止した」という体育科の先生のことばだった。貸出さない方が悪いのか、貸出せないようにした方が悪いのか、一応反省してみることも必要である。しかし、高一のある生徒の話によると「生徒が無責任だったことも事実だが先生の管理がルーズになったことも事実ではなかっただろうか。」とのことだった。体育館の狭いのは新校舎設立を急いでもらうより他はないが、体育用具は管理方法を徹底させ（なくした者にはお金をはらわすなど）貸出を許可してもらえないものだろうか。（Ｃ・Ｋ）

歌う三Ｄ

コーラスで友情を

みなさん、３Ｄの教室から流れ出る美しい（？）コーラスを聞いたことがありますか。えっ、そんなの聞いたことないって？ではこれからご紹介しましょう。

この〝コーラス〟案は、十月のあるＨ・Ｒの時間、男女間の親睦を計るためにはどうしたらよいかということを話し合い、その具体案として出されたものである。

そして、昼休みにみんなで歌うことにし、さっそく始めたが、せっかくの昼休みだから遊びたいという理由で参加者は少なかったという。みんなで決めたのにこれではいけないというので、帰りのＨ・Ｒの時に歌うことにし、先生にも参加していただくようにした。歌は、フォークソング・歌謡曲などのような教科書以外のもので、係りの四人が二日おきぐらいに新しい歌に書きかえているとのことだ。

西川先生談

今のところ、これといって変わったことはないが、これからも続けていくことによってきっとよい結果を得ることができるだろう。一回に二曲ずつ歌っているが、もっと多く歌いたいという声もある。こういうことは友情を深めるうえにおいておいに役立つことだから、他のクラスでもどんどん行なってほしい。

おたがいに歩みよろう

薄い先生と生徒間の交流

〝先生と生徒間の交流が薄い〟ということは現在本校で重要な問題となっている。この問題の打開策はないものだろか？去る１月24日、新聞部では熊野・中沢両先生、生徒13人を招き、座談会を行なった。この時出た意見を参考にしてもう一度これについて考えてみよう。

この座談会で〝先生と生徒間の交流が薄い〟点として次の四つが話し合われた。まずＨ・Ｒの話し合いの場合、先生がはいってきてくれない。次に先生が全然関心を示してくれない生徒会。そして部活動では先生が全く顔を出してくれないこと。もう一つは授業の時多くの先生が〝教壇だけの先生〟にとどまっていることについて。

では、これらについてもっと深く掘り下げてみよう。

まずＨ・Ｒの話し合いについて「現在は先生がそばに立って見ているだけという状態だ。もっと進んで僕達の方へはいってきてほしい。」という意見が出た。これに対して先生は「Ｈ・Ｒは生徒のものだから遠慮しているのだ。」しかし生徒もそれで満足しているわけではない。「そんな体裁のいいことといっても実際僕達のことを考えて下さっている先生は数える程もいないんじゃあないか。」と中三年生から意見が出た。最後に先生から「私達も生徒との距離を縮めっと努力していることを認めてもらえるよう頑張ろう。」と意見が出された。

さて生徒会であるが「先生がこ気付かないでいることは、ずいぶんもったいない話である。来たるべき後輩のためにも、今からそういった気運を育てておくことが、われわれに課せられた、土佐中の今後のいっそうの発展を願う上での義務でもある。

遅刻の事といい、付属品化問題といい、その起因するところからは、一種のゼイタクさえ感じられる。「人間、ゼイタクに慣れてしまうとだめですな？……。」とは某先生のお言葉ではあるが――。

ここにおいて、各自がそれぞれ自主性を持ち直し、精神を引き締めて、中学生活そのものに体当りしていくよう呼びかけるものである。長い目で見れば、結局はそれが土佐校全体の向上につながるのだら。

主張

追いだせ心のゆるみ

最近われわれ土佐中生のあいだに〝精神のゆるみ〟が痛切に感じられる。

これを裏付けるものとしてもっとも良い例が、近来のめざましいばかり（？）の遅刻件数の増加である。現在のところ、中学の遅刻件数は高校のそれの膨大な影に隠れて、一見忘れられた存在となっている。しかし、数の上では目立たずとも、その成長率は決して高校に引けをとる（？）ものではなく、まさに驚異というよりない。そしてそれが冬場に入るとさらに激増し、年々減ることを知らないということも、もはや一つの因習になってしまっている。もっともこれは、はたからけしかけてもどうなるという性質のものではないそれだけに、このいやな風習を破るも続けるも、高橋先生が言われるように、結局は生徒自身の精神的緊張をうながし、各自の自覚に頼るのみである。校長先生もいつか語られたことである。「決して遅刻そのものをとやかく言ってはない。精神の問題なのだ」と。

最近問題として取り上げられた「土佐中の土佐高付属品化説」もその一つの現われであろう。たしかに、一つの屋根の下に中学と高校とが存在している限り、何らかの弊害が生じることは避けられまい。しかし一方、われわれ土佐中生には、高校生と直接に接触できる、いろいろ相談相手になってもらうことができるという、公立中には見られぬ強味が与えられていることも事実である。ただ、せっかく良き指導者や先輩に恵まれていながら、あまりにそれに頼りすぎ、本来の積極性ないしは自主性を押えてしまっているから、発展もなかえって土佐高の付属品のような感じのものになってしまったのだ。われわれがこの好条件にいつまでもおぶさっているより、むしろそれを最大限に活用し、われわれの躍進のための一つの足がかりにすべきであるということだ。

依頼心は捨てよう

自覚またれる土佐中生

「現在、土佐中は土佐高の付属品的な状態にある。言いかえれば土佐中は土佐高におんぶしている。」、「高校と中学校とが一緒になっている関係上、中学生は高校に頼ってしまっている。」というような声が生徒の間で聞かれる。事実、各部の部活動、執行部においても高校に押されて中学校の存在が軽視されているようだ。そこで、それについて新聞部では去る一月二十六日、中学生九名、高校生三名を招いて懇談会を開いてみた。その経過は次のようなものである。中一の生徒は、「中二、中三に比べると、学校生活があまり高校と結びつかないので高校を意識していない。」と言っているが、中三の生徒は、「中三だといっても最上級生という感じがまるでしない。小学校でいえば、まるで小学三年生といったような気がする。」と言っている。それでは他校の生徒（中三）はどんな気持ちで毎日を過しているのであろうか。おとなりの潮江中学校に行き、生徒に聞いてみた。ある中三の生徒は、「私は生徒会に関係しているが、中三になると最上級生として中一、中二の上にたち、少しでも学校を改善していこうという気持ちになるし、また、そういう自覚を持たされる状態におかれる。」と語っていた。懇談会ではその他、「中学生が思い切って行動できない。」、「中学生としての能力発揮の場がほしい。」、また、「校舎を分けてほしい。」というような事もだされたが、結局、「中学生という段階をフルに活用すべきだと思う。たいした事ができないとしても中学校は中学校で活動すべきだ。」という事で意見の一致をみた。また、中学側から、生徒議会、執行部が働きかけて分化できる部は分化したらどうかという案もでた。しかし、オブザーバーとして出席した高校生（高一）は、「中学時代は自分達だけでやりたいと思った事もあったが、今振り返ってみると、部活動面においては高校と一緒で良かったと思う。だから中学校が付属品的な状態であるという事にはいい面もある。」と語っていた。確かに高校と一緒であって良い面はあるようだ。例えば次にあげるような点である。第一に土佐高というものがどういうものかがよくわかる。第二に部活動や勉強の面において高校生がアドバイスをしてくれ、高校の良い面を取り入れる事ができる。第三に、高校に入る時、試験として中学三年間を反省する事も大切だが一方から見ると高校進学の心配がないので時間的余裕ができる、というような点である。ところで、校長先生は土佐中付属化について次のようにおっしゃっている。「土佐高と土佐中は密接な関係にある。そういう点において土佐高に付属化した中学校といえるかもしれない。しかし、現在の状態では付属化せざるを得ないとしても土佐高、土佐中は制度、あるいは指導面においてはあくまでも別のものであるので新校舎設立には一応、高校と中学校とは校舎、あるいは先生方、また、部なども分けたいと思っている。」結局、今の段階では現在の状態で高校の良い面を取り入れながら中学生としての自覚を持つという事が付属化打開への第一歩だと言えるようだ。

楽しかった寄宿舎生活

視野の狭い現代の学生

すぽっと

「リーン」呼びリンの音。「どうぞー。」奥さんのやさしい声が聞こえた。ガラガラ。その瞬間、我々は大きな緊張をおぼえた。突然目に飛びこんで来た整然としとした光景にしりごみしたのである。何しろ汚れと名のつくものは何一つ見当たらなかったのだから。

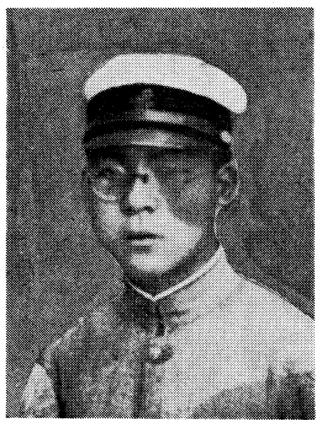
しばらくモジモジしていると和服をお召しになった先生が現われた。初めて見る先生の和服姿である。えゥ誰先生かって。あっ、それを忘れては大変。と本来ならばここでそれは○○先生ですとなるところだが、ちょっといじ悪してそれは最後にまわさせていただくことにする。

ではさっそく先生の学生時代についておたずねしてみよう。

「土佐校時代はいかがでしたか？」

「今の校舎へ移ったのが中三の時で、生徒数は確か百二、三十人だったなあ。生徒同志はもちろん、先生と生徒の仲も親密だった。弁当も先生と一諸に雑談しながら食べとった。だから今でも同窓会などで会うのは親しい人が多いよ。」

こう言われたあと、その同窓会の写真を取りに行かれたので我々一同大きく深呼吸。「これが××君でこっちがどこそこの△△君。」我々のまったく知らない人ではあるが、説明される先生の表情にはその人達に対するなつかしさがあふれていた。


Who is he ?

当時家が田舎だったため寄宿舎へ入っておられたという。

「家からの送金は全部舎監の大野先生の手元にあって、小使いなどもらいに行くんだが、何にいくら使ったか、いちいち帳面につけとったなあ。夕飯が五時だったから、寝る前に腹がすいてすいて『あしたの朝は肺だけになるぞ』などと言いながら寝たもんだった。仲間ととっ組み合いもよくしたが、それでも兄弟の様に仲が良く、勉強も助けあってやったし……。」学生時代の思慕にふけりながら語られる先生は、まるでもう一度学生にもどったような様子であった。

「あの頃は教室での授業も辞書や参考書を使って自分で勉強しとったんだが、今と違って受験に束縛される訳じゃなし、勉強をほんとに楽しむことができた。授業中にしかられることもなく、非行問題もまったくなかった。」こうおっしゃった時の先生のお気持ち……。

なんだかシンミリとなったので、話題を転じて御趣味をうかがってみた。「趣味というほどのものはないなあ。へボ将棋にザル碁じゃ。暇があったら好きな本を読んだり、子供と話をしながら酒を少々やって、小使いをねだられて……ハハハ……。」

「最後に、今の土佐校生についてどう思われますか？」

「社会環境のせいもあるだろうが、土佐校生に限らず全般的に視野が狭くなっているようだ土佐校生だけについて言えば、以前のような官吏などだけでなく、この前の新聞に出とったデイック・ミネさんや漫才師の秋山左楽さんのようなバラエティーのある人物が出る可能性もおおいにあると思う。」

あれから二時間近くすわりづめの我々、シビレチャッテシビレチャッテ……さて、おいとまをする前に、ここでお待ちかねの当の先生を紹介しよう――我々の大先輩、本校第一回生のご存じMR・K・SOGABEでした！

「では、お忙しいところをお邪魔しました。」

（Ｈ・Ｏ）

今回をもちまして「すぽっと」を終りたいと思います。長い間の御愛読どうもありがとうございました。

――部長――

こえ

礼儀正しく

現在の中一は六〇人多いネ。女の子は特にカワイイ子がたくさんいるネ。みんな活発でハリキッテルネ。私達の時はもっとオトナシカッタヨ。でもだからといってオトナシクしないなんてイワナイヨ。タダちょっと気になったからいわせてもらうけどこの間の話ネ「オハヨウッ！」っていわれたから「オハヨウザイマス」って答えたんだけど相手は中一だったヨ これじゃあ反対じゃないか？特に気になったからこの事についていわせてもらったけどその他にもあるヨ。やっぱり上級生には「オハヨウゴザイマス」っていってほしいナ。君達の先輩としていわせてもらったヨ。

（中一・Ｙ）

上ばき下ばきの区別を

最近、上ばき下ばきの区別を、とよくいわれていますが、いっこうよくなっていないようです。わたり廊下などを下ばきでゆうゆうと歩く、上ばきで下へおりてそのまま洗いもしないで上へあがる、そういう事を多くの人が平気でやっています。が、又、それを注意しようとする者もいません。それはみんながそんな事になれてしまって悪い事とも思わなくなっているんではないでしょうか。自分の家でそのままはだしでおりる人はあっても、くつのまま上にあがる人はいないでしょう。学校も同じです。校舎は古くおんぼろかもしれません。が、上下の区別なく歩いてもかまわないということがあろうはずはありません。ですから一人々々が自覚してどんな小さな規則でも、たった一つでも守ろうではありませんか。（中二・Ｋ）

窓を開けよう！

本校では狭い教室に六十人余りもつめ込んで授業をしているので室内の空気は悪くなりがちである。そこで少々寒くても窓をあけてさわやかな空気の中で勉強しよう。と言っても何もずっと窓をあけておけと言うのではない。あまり寒くなればしめなくてはいけない。が、とにかくこれからはだんだん暖かくなることだし、皆で窓をあけて、空気のきれいな教室でせいぜい勉強しようではないか。

（中三・Ｉ）

眼に休息を

ぼくはこの学校へ来て何におどろいたといって近視の多いことほどおどろいたことはない。ぼくたちのクラスでもメガネをかけていなくても約半数の人が近視である。実際そういうぼくもメガネザルの一人であるが…。この学校はエリート校といわれるだけあって、みんなよく勉強し、本を読む。しかし、いくら本を読んだところで眼が見えなくなればもともこない。だから、たまには本から目をはなし運動でもしよう。そうしてこの大事な眼を少しでも休ませてあげよう。皆さん、ほんとうに眼は大切にして下さい。ぼくのようにメガネザルになってしまってからではもうおそいのです。

（中二男子）

ヒフ病薬　新薬は
はりまや薬局
はりまや橋四国銀行本店前　ＴＥＬ ②2665

古本誠実買入
井上書店
定休日　1.2.3.4の月曜日
高知市帯屋町中の橋通り
ＴＥＬ ③３９２１

趣味の陶器を沢山揃えております
依光陶美堂
高知市オビヤ町　ＴＥＬ ②２３２１

高知一の定評　うまいお寿しは
菊寿し　チエーン
菊寿し　本店　中央公園西口
西店　大丸西口
10エン寿し
ひょっとこ　京町店　大丸東口
帯屋町店　中央公園北口
Volume の寿し　学生寿し　近日発売予定（各店共通）

机、椅子、本箱
家具のことぶきや
本店　高知市帯屋町７３　③4266
ベットセンター　中の橋通り高知スーパー東側　③3412

良品、廉価で
ご家庭に奉仕
行楽のお買物は
土電ターミナルで
土電会館
高知・横浜
高知マリンセンター
春休みのレジャーにご利用下さい

土佐高等学校中推薦店
学生かばん
旅行用袋物
かばん・袋物・専門店
とトミヤ
高知・京町　ＴＥＬ②3418